



# 緑の風



1年生・教室の絵

学校教育目標「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども」  
～“自分で考え みんなと創る” 楽しい ふるさとの学校～

## 炎のパクパク週間 & 食育の日



今年も、給食委員会の皆さんや栄養教諭の長澤香先生が、みんなの健康を考えて、食べることに「炎のパクパク週間」を実施されます。各学年で、ランスよく、なるべく残さずに食べることにチャレンジします。そして、苦手な食べ物へも一口チャレンジをしています。優勝すると「給食クエースト券」がもらえます。自分の体調やバランスを考えて、健康的な体作りを目指すことに全校で注目しています。

また、6月と7月の昼休みには、2日間ずつ「食育の日」イベントを企画しています。6月は、牛乳月間として、牛乳のよさを紹介したり、イラストコンクールを考えたりしているようです。7月は、夏場の「冷たい飲み物」との付き合い方がテーマです。



もちろん、教室でも勉強する「食育」ですが、学校全体にその大切さを教えてくれる機会があるということは、とてもありがたいことです。ご家庭でも、食事のときの話題にしてみはいかがでしょうか？

他にもホールのあたりには、長澤先生が準備してくれている様々な“食”に関する仕かけがあります。下の写真は、左から「今日のきゅうしょく」「はしの使い方コーナー」「食の本コーナー」です。「はしの使い方コーナー」では、休み時間になると、1年生などがやってきて、つかみやすいスポンジから難しい豆などはしてつまんで遊んでいます。

「食育」も、家庭と学校との連携が大切です。おいしい横堀小の給食を話題にしなが、ご家庭でも食べることの大切さを語ってあげてください。



コロナの休校措置に対する補充として、大仙市全体の**今年の夏休み**は、**7月18日(土)から8月16日(日)まで**となりました。

当初の計画よりも、後半の4日間が削減です。

また、**10月12日(月)、13日(火)**に予定されていた秋休みはなくなって、**出校日**となります。

冬休みは計画どおり、**12月26日(土)から1月13日(水)**の予定です。

この決定を受けて、学校行事も見直しましたので、近いうちにお知らせします。



# 学年紹介 パート6 一人でできることが どんどん増えてる1年生「はばたき」学年

全員マスクをしての特別な入学式から3か月。途中で休校もありましたが、最近の子どもたちの様子を見てみると、一番スムーズに学校生活になじんでいるのが1年生のようにも見えます。

やさしいリーダーのお世話のおかげで、集団登校で歩いて来ることにもだいぶ慣れてきました。そして、学校に来ると、一人でランドセルから自分の机に教科書を入れて、先生に出すものを板垣先生の机の上のかごに入れます。これが実にスムーズなのです。当たり前のように自分で朝の支度ができている立派な1年生です。



それから、最近は大きくなった朝顔に水をあげます。葉っぱは、すでに自分たちの手のひらよりも大きくなっています。夏休みまでには、きっと大きな花が咲くことでしょう。そのときの子どもたちの目の輝きと歓声が楽しみです。

昼休み後の疲れている時間でも、縦割り活動である、ひまわり班の6年生に教えてもらいながら、様々な用具をうまく使って、そうじもできるようになりました。



授業中の様子も大成長です！！この日は「お・を」「わ・は」「え・へ」などの使い方を考える勉強でした。鉛筆の持ち方に気を付けながら、国語の基本となるひらがなをていねいに書こうとする目が真剣でした。

そして、板垣先生が教えるだけではなく、子どもたちの考えをつないで、自分たちで授業をつくっていくこともできていました。発表する人をちゃんと見続けていられる1年生の姿にびっくりです。そして、毎時間、校長室まで聞こえてくる、“スーパー元気”な「はーい」という“たいようの声”で手を挙げる1年生です。

少しほめると、目をキラキラさせて、よりがんばろうとする姿に、心の素直さや豊かさを感じます。家庭での温かでていねいな育ちが、1年生の教室でしっかりと花開いてきているのがわかります。

はやく7月10日のPTAが来ないかなあ！保護者の皆様、お楽しみに！



100万人が信頼した脳科学者の「絶対に賢い子になる 子育てバイブル」ダイヤモンド社より

## 感情をラベリングできる子どもは落ち着きがある

- 幸せな子どもを育てている親は、子どもの感情に名前を付ける習慣がある（「悲しい」「よろこび」「うれしい」「心配」「やきもち」「くやしい」など）
- 感情を言葉で表現すると、子どもの神経系を鎮める効果がある
- 「泣くことは、それなりによいものです。でも、遅かれ早かれ泣き止まなければなりません。そうすると、それからどうするかを決めなければなりません。」
- 子どもは、親に見守られ、よく耳を傾けられ、反応してもらう必要がある。

子どもの気持ちを認めて共感してあげること。そして、いずれは建設的に前に向かって生きていくことを教えていくこと。「感情のラベリング」は気持ちの言葉による説明。「んだよなあ～、くやしいよねっ」と、私も横堀の子どもたちに実践してみます。